

(様式1)

令和4年度指定管理者による公の施設の管理状況評価表

1 施設名 (所管課)
県民公園自然博物館 自然保護課

2 施設所在地
富山市婦中町吉住1-1

3 施設設置年度
昭和56年度

4 設置目的
自然に親しみ学習する機会を提供し、展示館と自然観察のためにフィールドを利用して自然保護思想の普及を図ることで、県民の教育向上ならびに福祉の増進に寄与することを目的とする。

5 施設概要
敷地面積：147,498㎡
自然博物館センター
・延床面積：726.54㎡
・構造：鉄筋コンクリート2階建
・施設内容：1階 展示室、レクチャールーム
2階 展示室、事務室、トイレ、研究資料室等
鳥獣保護センター
・延床面積：112.52㎡
・構造：管理棟 鉄筋コンクリート造平屋建 一部鉄筋金網造
・施設内容：救護室、飼育室8室
・関連施設：焼却施設
フィールド
・山林：約12.8ha
・園路：1周約2km自然観察路
・工作物：シンボルタワー1基木造、標識1基木造、バランスボード1基、ライド遊具3基

6 指定管理者
公益財団法人富山県民福祉公園

7 指定期間
5年
平成30年4月1日 ~ 令和5年3月31日

8 利用者数及び利用（使用）料金収入の状況

(1) 利用者数（人）

H30	R1	R2	R3	R4
19,374	18,859	15,668	13,144	14,311

(2) 利用（使用）料金収入（千円）

H30	R1	R2	R3	R4
-	-	-	-	-

【参考】 利用料金収入見込み額（利用料金制導入施設の場合）

H30	R1	R2	R3	R4
-	-	-	-	-

9 評価項目

(1) 利用者数・収入の増減に対する評価

利用者数:1,167人増加(令和3年度比)

【評価】新型コロナウイルス感染症に収束の兆しとなったことから、利用者は昨年度と比較して1割程度増加した。

(2) サービス向上に向けた取組み

・令和4年度において、安全性への懸念から取り壊しとなった囲炉裏小屋の代わりに、東屋に薪ストーブを設置する等、利用者のニーズに合わせた対応を行った。

(3) 利用促進（収入増）に向けた取組み

・指定管理導入以来、マスコミや来館者などに対し、積極的に情報提供を行っている。
・指定管理導入以来、「リアルタイム自然情報」やHP、ブログ、園内の看板の更新の他、利用者への積極的な対応を行っている。
・平成27年度より、近隣の小学校、幼稚園、保育所などを訪問し、直接施設の魅力についてPRしている。
・上記の取組みの反響などを踏まえ、これまで年3回開催してきた「ちびっこ自然教室」を令和4年度は、4月から11月までの第二日曜日に定期開催とした。

(4) 利用者のニーズ把握や苦情への対応

①アンケート結果

実施方法	実施期間：通年、実施方法：入場時にアンケート用紙を配布
回答者数	回答者数：166人
結果	施設全般の満足度：「満足」「やや満足」91.0% また来たいか：「来たいと思う」「少し思う」95.2%
結果を踏まえた改善事項	アンケートの結果により、リピーターの利用が半数以上を占めていることがわかった。リピーターの方の声に応えるため、令和2年度、令和3年度の展示館1、2階フロア改修に続き、エアコンの設置を行った。

②その他利用者の声を反映させる取組み

・意見箱の設置
・HPやメールの活用
・ボランティアや利用団体等との意見交換

③主な苦情と対応

特になし

(5) 個人情報保護の取組み

・個人情報に関する指針を定め、職員に周知を図っており、適切な個人情報保護が図られている。

(6) 関係団体との連携

- ・保育園、幼稚園での出前講座を実施した。
- ・地元保育所、小学校などの校外学習サポート、環境教育を行った。
- ・「ねいの里自然塾の会」と連携し、行事を実施した。

(7) 施設・設備の維持管理

- ・各施設の整備点検、施設修繕を実施し、適切に管理されている。

(8) 危機管理・安全管理などの取組み

- ・災害、事故等の連絡体制を定め、迅速に対応
- ・池や崖地周辺への侵入防止柵の設置
- ・AEDの管理や講習会への参加
- ・新型コロナウイルス感染防止対策として、展示館の入口における検温器の設置及び各所でのアルコール消毒液の配置
- ・入口や窓の開放など換気対策の徹底とノブやテーブルなどの消毒
- ・老朽化による倒壊や火災の危険性があつた囲炉裏小屋の撤去

10 所管課の管理運営確認状況

- ①定期報告の受理
- ②維持管理・運営状況等の担当職員現地確認
- ③個人情報に関するトラブルの有無
- ④危機管理・安全管理上のトラブルの有無

有/無	回数(有の場合)
有	12
有	12
無	-
無	-

【トラブルの具体的内容と対応】

無し

11 今後の課題等 (収入確保、経費削減、サービス維持向上等の観点から今後の課題を記載)

新型コロナウイルス感染症の影響は落ち着いてきているものの、近接するいこいの村が閉鎖となり、連携による入園者が減少したが、一方で屋外での自然体験のニーズは高まっており、また、当施設はリピーターが多いという特徴があることから、こうした点を踏まえた取組みが求められる。

このことから、引き続き感染防止対策の徹底など、利用者の安全を第一としつつ、業務の効率化による経費節減に努めながら、施設目的の達成と、現在の利用者のニーズに的確に対応した管理運営に取り組む必要がある。